

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-40	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 I 331	改訂版 新 高校の数学 I		

1. 編修の趣旨及び留意点

- (1) 数学を学ぶよさを認識したうえで、できるだけ楽しく学べるように留意した。
- (2) 学んだ内容や考え方などを生活に生かせるように、また、生活に生かす態度を養えるように留意した。

2. 編修の基本方針

以下の3つを基本方針に据え、数学の力の確実な底上げを目指した。

- 1** できるだけ平易な題材によって、基本的な内容の定着がはかれる。
- 2** 動機付けを重視し、数学を学ぶ意義が実感できる。
- 3** 数学を苦手とする生徒でも、楽しんで数学的な考え方が身に付けられる。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	展開の公式を図解することで、式を様々な方法で見る姿勢を養えるようにした(第1号)。	前見返し表 左上, 左下, 右上
第1章 数と式	高価なお弁当をより多く買うという事例を 考えることで、数学と日常生活との関連を 重視する態度を養う機会を設けた(第2 号)。 この章で学んだ式の計算の知識を活用し、 整数の計算という具体的な事例に反映する 態度を養えるようにした(第1号)。	6~7 ページ 48 ページ 51 ページ
第2章 2次関数	2次関数の知識を、具体的な場面で活用で きる能力が身につくように配慮した(第1 号)。 放物線にまつわる外国の伝説を取り上げ、 他国やその歴史に関心をもつ機会を設けた (第5号)。	78 ページ 91 ページ 25~28 行目

第3章 図形と計量	三角比の知識を測量など具体的な場面で活用する能力が身につくように配慮した（第1号）。	101 ページ 102 ページ 118 ページ
第4章 集合と命題	物事の真偽を明確な根拠のもとに判断し、それを表現する能力がつくように配慮した（第1号）。 身近なサッカーの優勝争いを例にとり、数学と日常生活との関連を重視する態度を養う機会を設けた（第2号）。	124～137 ページ 137 ページ
第5章 データの分析	身の回りにあるデータの傾向を数学的に考察し説明できるように配慮した。（第1号） 全国高校駅伝大会の記録を取り上げる際、女子と男子の両方の記録を扱った（第3号）。 100年以上に渡る東京の気温の変化を取り上げ、地球環境の変化に関心をもつ機会を設けた（第4号）。	138～159 ページ 140 ページ 142 ページ 159 ページ
確認問題	本文中の「練習」の反復問題を多く収録し、さらに定着をはかり能力を伸ばすことができるようにした。また、意欲のある生徒が本文の「練習」に追加して取り組めるよう、「もっと練習しよう！」として確認問題のページ数と問題番号を示した（第2号）。	36～37 ページ (15 ページ練習 16) ほか、49, 72, 88～89 ページ なども同じ
課題学習	数学 I で学んだ内容を、生活と関連付けたり発展させたりするなどして、生徒の関心や意欲を高める課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにした（第1号）。	160～170 ページ
練習、確認問題、問題の答	自学自習もできるように、練習、確認問題、問題全問の答を掲載した（第2号）。	171～180 ページ
三角比の表	三角比の値を具体的事象に活用する場面で、近似値が調べられるようにした（第2号）。	181 ページ
後見返し	昔に日本で行われた測量の様子を紹介し、我が国の伝統と文化に触れ、それを尊重できる機会を設けた（第5号）。	後見返し左下

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

基本方針にのっとり、以下の点に特に意を用いた。

1 できるだけ平易な題材によって、基本的な内容の定着がはかれる。

基本的な内容を厳選し、丁寧に解説するようにした。

● たすきがけの因数分解 (26~27 ページ)

初学者がつまずきやすいたすきがけの因数分解について、詳しい手順や試行錯誤する過程も含め、2 ページに渡って解説し、確実な定着を目指した。

○ たすきがけの因数分解
▶ 22 ページの展開の公式 4 から、次の公式がえられます。

因数分解の公式 4

$$acx^2 + (ad+bc)x + bd = (ax+b)(cx+d)$$

この公式を使って、 $3x^2+5x-2$ を因数分解しましょう。

$ac=3, ad+bc=5, bd=-2$
となる整数 a, b, c, d をさがします。

$3x^2 + 5x - 2$

この計算の a, b, c, d に入る整数をさがすことと同じです。

【因数分解の公式(たすきがけ)】
 $3x^2+5x-2$ を因数分解します。

例 23

① $ac=3$ を 1×3
 $bd=-2$ を $1 \times (-2), (-1) \times 2, 2 \times (-1), (-2) \times 1$ とみます。

② その中で、 $ad+bc=5$ となるものをさがします。
まず、 $3=1 \times 3, -2=1 \times (-2)$ の場合を考えます。

ななめにかける

$$\begin{array}{r} 1 \times 3 \rightarrow 3 \\ 3 \times 1 \rightarrow 3 \\ \hline 3 \times 1 \rightarrow 3 \\ 3 \times 1 \rightarrow 3 \end{array}$$

たす

$$\begin{array}{r} 1 \times 3 \rightarrow 3 \\ 3 \times 1 \rightarrow 3 \\ \hline 3 \times 1 \rightarrow 3 \\ 3 \times 1 \rightarrow 3 \end{array}$$

①の部分がかける係数 5 と等しくならなかったため、 $3=1 \times 3, -2=1 \times (-2)$ は適していません。

次のような手順です。

ななめにかける
→ たす
→ x の係数 5 と等しいか確かめる

$1 \times (-2), (-1) \times 2, 2 \times (-1), (-2) \times 1$ のすべての場合について調べると、次のようになります。

x の係数 5 と等しいものに○、等しくないものに×をつけましょう。

このような計算を「たすきがけ」とよびます。

③ $a=1, b=2, c=3, d=-1$
のときが適するので
 $3x^2+5x-2=(x+2)(3x-1)$
と因数分解できます。

練習 31 次の空らんにあてはまる数を入れて、 $2x^2-11x+5$ を因数分解しなさい。

したがって
 $2x^2-11x+5=(\quad)(\quad)$

練習 32 次の式を因数分解しなさい。

(1) $2x^2+3x+1$ (2) $5x^2+16x+3$
(3) $2x^2-5x+3$ (4) $7x^2-15x+2$
(5) $5x^2+3x-2$ (6) $3x^2-8x-3$
(7) $3x^2+4x-4$ (8) $6x^2+7x+2$

もつと練習しよう!

p.37 確認問題 12

● 1 次不等式の解法 (46 ページ)

事前に学んでいる 1 次方程式の解法と比較しながら、数式と日本語を織り交ぜて解説した。また、1 次方程式と 1 次不等式の係数をそろえることで、解法の共通点と相違点が明確になるようにした。

▶ 1 次不等式の解き方を、39 ページの 1 次方程式の解き方と比べてまとめておきましょう。

方程式 不等式

$4x-1=6x+7$ $4x-1<6x+7$

移項して、 x を含む項を左辺に、定数項を右辺に集める。

$4x-6x=7+1$ $4x-6x<7+1$

両辺を整理する。

$-2x=8$ $-2x<8$

両辺を x の係数でわる。

$x=-4$ $x>-4$

x の係数が正ならば、不等号の向きは変わらない。
 x の係数が負ならば、不等号の向きが変わる。

● 2 次式の平方完成 (67~70 ページ)

2 次の係数が 1 の場合、1 以外の正の数の場合、負の数の場合に分け、4 ページに渡って順を追って解説した。また、計算の様子を図解し、理解と定着が進むように配慮した。

このように、
 x^2-2px は、 $(x-p)^2-p^2$ と変形できます。

【 x^2-2px の変形】
 $x^2-10x=x^2-2 \times 5x=(x-5)^2-5^2$

例 5

半分
 $x^2-2px=(x-p)^2-p^2$
2乗

半分
 $x^2-10x=(x-5)^2-5^2$
2乗

基本的かつ重要な内容は反復問題を充実させ、演習を通じて定着できるようにした。

●確認問題 (36~37 ページなど)

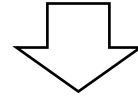
「例」や「例題」の反復問題として、「練習」を数多く設けた。さらに、節末に「確認問題」として、反復問題を多く掲載した。本文中の「練習」に、追加すべき確認問題のページ数と問題番号を記載し、意欲のある生徒はさらに演習を積めるようにした。
また、確認問題には「まとめ」として、問題をランダムに配置した設問を設け、学習した内容が身についているか確認できるようにした。

本文の練習

練習 25 次の式を展開しなさい。

(1) $(3x+1)(x+2)$	(2) $(2x+1)(x-3)$
(3) $(x-1)(2x-3)$	(4) $(2x+3)(3x+4)$
(5) $(5x-2)(3x+1)$	(6) $(4x-1)(2x-5)$

もっと練習しよう!
p.36 確認問題 6



節末の確認問題

p.22 例 10 6 次の式を展開しなさい。

(1) $(x+1)(3x-2)$	(2) $(2x+5)(3x-1)$
(3) $(4x+3)(3x-5)$	(4) $(2x+y)(5x+3y)$

例 15~18 7 次の式を展開しなさい。

(1) $(x-5)(x+5)$	(2) $(3a+4b)^2$
(3) $(x-1)(x-9)$	(4) $(2a+b)(2a-b)$
(5) $(2x+1)(x-8)$	(6) $(x-7)^2$
(7) $(x+5y)(x-4y)$	(8) $(3x-2y)(2x+3y)$

小中学校の復習の内容も掲載し、既習事項とのギャップをなくすようにした。

●計算の基本 (8~10 ページ)

数と式の学習に入る前に、小中学校で学ぶ数の計算を 3 ページに渡って復習できるようにした。

●直角三角形 (94~95 ページ)

三角比の学習に入る前に、直角三角形の相似や三平方の定理、三角定規の辺の比について復習し、新たに学ぶ三角比の内容の準備ができるようにした。

●分数の計算

▶ 分数の計算は、次のようにします。

- ① 分母の異なる場合のたし算、ひき算は、通分してから行う。
- ② かけ算は、分母どうし、分子どうしをかける。
- ③ わり算は、わる数の分母と分子を逆にしてかける。

【分数の計算】

例 4

(1) $\frac{1}{3} + \frac{7}{6} = \frac{1 \times 2}{3 \times 2} + \frac{7}{6} = \frac{2}{6} + \frac{7}{6} = \frac{2+7}{6} = \frac{9}{6} = \frac{3}{2}$	(2) $\frac{1}{2} \times \frac{8}{3} = \frac{1 \times 8}{2 \times 3} = \frac{4}{3}$
(3) $\frac{1}{2} \div \frac{3}{5} = \frac{1}{2} \times \frac{5}{3} = \frac{1 \times 5}{2 \times 3} = \frac{5}{6}$	

練習 4 次の計算をしなさい。

(1) $\frac{1}{4} + \frac{5}{4}$	(2) $\frac{1}{2} + \frac{3}{8}$	(3) $\frac{1}{4} - \frac{1}{6}$	(4) $3 - \frac{2}{5}$
(5) $\frac{1}{3} \times \frac{5}{6}$	(6) $\frac{3}{8} \times \frac{2}{3}$	(7) $\frac{3}{7} \div \frac{6}{7}$	(8) $\frac{1}{3} \div \frac{5}{6}$

3と6の最小公倍数6が分母になるように通分します。
約分できるときは、必ず約分します。

2 動機付けを重視し、数学を学ぶ意義が実感できる。

●章とびら

各章の最初に大きな問題提起をすることで、「この章を学べばこのようなことが解決できるようになる」と実感できるようにした。また、章とびらと同じ題材を本文中の例題などで扱い、「この章を学んで、章とびらの問題を解決できるようになった」と実感できるようにした。
このように、章とびらを通じて、数学を学ぶ意義が実感できるように構成した。

章とびら (52ページ)

長さが 8 m の金あみを折り曲げてかべにつけ、長方形の囲いを作ってにわとりを飼おうと思います。

囲いが広い方が、にわとりは元気に育つんじゃないかな。

囲いをできるだけ広くするには、どのように折り曲げればよいでしょうか。

本文の例題 (78ページ)

例題 3 長さが 8 m の金あみを折り曲げてかべにつけ、長方形の囲いを作る。囲いの面積を最大にするには、かべに垂直な部分の長さを何 m にすればよいですか。

●項目初め (103ページなど)

各項目の初めに「ここで学ぶこと」として項目内で学ぶ内容を示し、学習の目標が明確になるようにした。
また、簡単な導入問題を併設し、単に読むだけでなく作業を通じて学習内容にスムーズに入れるように配慮した。

4 三角比の相互関係

図の左側の直角三角形の向きを変えて、右側のようにしました。
辺の長さ、角の大きさはどのようになるでしょうか。空らんをうめましょう。

POINT
ここで学ぶこと

サイン、コサイン、タンジェントの間にはある関係が成り立ちます。ここでは、その関係について学びます。

3 数学を苦手とする生徒でも、楽しんで数学的な考え方が身に付けられる。

できる限り身近な例を用い、楽しんで学べるようにした。

●コラム (137ページなど)

日常生活と数学の関わりがわかるようなコラムをいくつか取り上げ、数学が生活に関連していることを実感でき、数学への興味、関心がもてるように配慮した。
第4章のコラムでは、サッカーJ1リーグ戦で優勝するための最終戦の勝敗について「必要条件」「十分条件」との関連に触れ、日常生活でも数学を使って物事を捉えていることに気付けるような内容にした。

+ COLUMN +

日常生活と必要条件、十分条件

この章で学習した「必要条件」や「十分条件」の考え方は、身のまわりでも使われています。プロサッカーのJ1リーグ戦を例にとって考えてみましょう。

●データの分析 (138~159ページ)

全国高校駅伝大会の記録やプロ野球のデータなど、実際のスポーツのデータを利用し、生徒が興味をもてるように配慮するとともに、日常生活に数学の知識を役立てる意識を育てられるようにした。

作業的要素を取り入れた。 (44ページなど)

「練習」では、空欄補充やグラフをかき込むなど、作業的要素を取り入れた。また、「例」など練習以外でも、簡単な作業をしながら解説を進めることで、楽しみつつ数学の考え方が身に付けられるようにした。

【不等式の解】

例 7 1, 2, 3, 4, 5, 6 が、不等式 $x+5 < 9$ …… ① の解であるものに○をつけましょう。

の解であるかどうかを調べます。

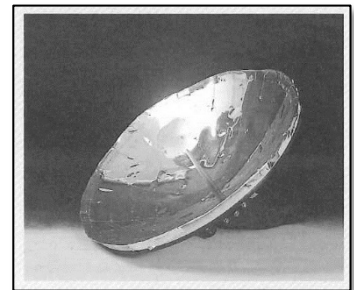
$x+5$ の x に、1, 2, 3, 4, 5, 6 を代入して、9 との大小を比べると、右の表のようになります。よって、1, 2, 3 は不等式 ① の解です。

x	x+5	大小	9
1	6	<	9
2	7	<	9
3	8	<	9
4	9	=	9
5	10	>	9
6	11	>	9

教具の写真を紹介した。

●見返し、コラム (91ページなど)

数学を「体験」できる教具の写真を紹介した。
第2章のコラムでは、放物線を利用して、太陽光で焼き芋ができる「ソーラー芋焼き器」を紹介し、放物線や2次関数について楽しんで学べるようにした。



4 ユニバーサルデザインに関する取り組み

●色づかい

色覚の個人差を問わず多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した。

●文字

副文やふり仮名などサイズの小さい文字を中心に、多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字（ユニバーサルデザインフォント）を使用した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-40	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 I 331	改訂版 新 高校の数学 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 全般的な留意点

- 1 基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めることができるように、中学校との接続ならびに各学習事項の体系にも留意した。
- 2 事象を数学的に考察し表現する能力を高めることができるように、用語・記号の定義や本文の説明, 練習問題は, 単純平明で理解しやすい内容を心がけた。
- 3 知識・技能の習得だけでなく, 数学のよさを認識し, それらを積極的に活用することができるよう, 本文中の例では, 可能な限り生徒に身近で興味もてる題材になるようにした。また, 章とびらやコラム, 課題学習の内容も生徒の興味を引くような題材を厳選した。
- 4 数学的論拠に基づいて判断する態度が育つよう, 論理的に誤りや飛躍が無いように記述する一方で, 厳密さに極度に傾倒しすぎず, 数学が苦手な生徒でも読みこなせるような平易な表現にも配慮した。

2 教科書の特色

- 1 動機付けをはかるため, 各項目の初めに簡単な導入問題を設けたり, 「ここで学ぶこと」として, その項目の目標などを文章で入れたりした。章とびらでは, その章で解決できる大きな問題提起をして, その章を学ぶ意義がわかる構成にした。
- 2 本文においてはやわらかな言葉づかいにし, 親しみやすくした。
- 3 単純平明な例や例題を扱い, 基本概念の理解が容易になるようにした。また, 随時練習問題を設定し, それを生徒が解くことによって内容の定着がはかれるようにした。
- 4 生徒の意欲に応じ, 問題を追加して練習することができるように, 節末に「確認問題」として, 反復問題を多く設けた。
- 5 既習事項でも, 必要な場所でその都度詳しく取り上げ, 復習も容易にできるようにした。
- 6 B5 判サイズを生かし, ゆったりとした体裁にした。また, 本文の理解を助けるために, 右横に補足的な説明や図式を補った。
- 7 本文の全ページを多色刷りとし, 図やイラストも多く用いて, 視覚的にも理解を助けるように配慮した。また, グラフを直接かきこむなどの作業的要素を多く取り入れた。
- 8 重要事項は枠で囲んだり太字にしたりして, 強調し, 見やすくした。
- 9 「COLUMN」において, 数学に関する話題を紹介し, 数学に親しみをもてるように配慮した。

10 色覚の個人差を問わず多くの人が見やすいように、カラーユニバーサルデザインに配慮した。また、副文やふり仮名などを中心に、多くの人が見やすく読みましがえにくいデザインの文字（ユニバーサルデザインフォント）を用いた。

3 教科書の構成要素

[（導入の問題）] 項目の初めに、簡単な導入問題を扱った。

[ここで学ぶこと] その項目で学ぶ目標などを示した。

[例] 基本的な具体例や計算例を取り上げた。

[例 題] その項目で扱っている内容の代表的な問題を取り上げた。解答は模範解答とし、必要に応じて手順や説明文を右横に示した。例題は、例とともに学習事項の中核をなすものとなる。

[練習] 例・例題・説明文などが理解できたかを確認するための問題である。学習者自身が解くことを想定している。

[確認問題] 節の終わりにある確認のための問題である。節の終わりにまとめて解いても、本文中の練習に追加して解いてもよい。「振り返ろう！」で本文中の例、例題に戻って確認することもできる。また、「まとめ」として、ひとまとまりの問題をランダムに配置した設問もある。

[問題] 章の終わりにあるやや難しい問題で、A、Bの2段階に分かれている。各問題にはヒントを示し、学習者の負担にならないように配慮した。

[答] 学習者の便宜をはかるため、巻末に練習・確認問題・問題の解答を示した。自学自習などにも活用できる。

[COLUMN] 本文の内容に関連した興味深い話題を取り上げた。

[課題学習] 本文の内容に関連して、学習者が主体的に取り組む課題を設けた。

4 各章において配慮した点

第1章 数と式 数と式の計算／1次不等式

第1節では、中学までの既習事項もできるだけ丁寧に取り上げた。

第2節では、不等式の意味をきちんと説明した上で、中学で既習の等式の性質や1次方程式と比較して扱うことで、理解を助けるようにした。

第2章 2次関数 2次関数のグラフ／2次関数の値の変化

理解を助けるため、図や色を効果的に使用し、生徒が直接かきこめるスペースもふんだんに用意した。

第1節では、具体的な例で確かめながら2次関数のグラフの特徴を考察した。

第2節では、常に2次関数のグラフと関連させながら、最大値・最小値、2次不等式を扱った。

第3章 図形と計量 三角比／三角形への応用

第2章同様、図をふんだんに利用して、わかりやすく説明した。

第1節では、三角比の有用性を示すため、タワーの高さや川をはさんだ2点間の距離など、できる限り身近な例を用いて説明した。

第2節では、できるだけ単純な図形で考察し、理解しやすいように配慮した。

第4章 集合と命題

集合の基本事項や論理的な考え方の基礎が習得できるようにした。特に、形式的な用語の習得の連続にならないように、命題の真偽や反例、必要条件・十分条件の意味や使用法が理解できるような内容にした。

なお、この章の内容は他の章に比べて抽象的な内容であり、理解しにくい生徒がいることも想定されるため、独立な章として後半の第4章とした。

第5章 データの分析

実生活に統計の内容を役立てられるようにすることを目標とした。そのために、標準偏差や相関係数などの値を求める過程に加え、その値からどのようなことがわかるのか分析・考察することを重視した。また、駅伝の記録やプロ野球のデータなど、生徒が興味を持ちやすいスポーツのデータを題材とした。

課題学習

様々な運用に対応するため、巻末にまとめて取り上げた。折込の付録を用いるなどして、できるだけ生徒が手を動かして作業し、数学に親しめるようにした。また、生徒が意見を発表し、議論しあうような場面も設定した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 数と式 第1節 数と式の計算 第2節 1次不等式	2 内容 (1) 数と式 ア 数と集合 (ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。 イ 式 (イ) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。 (イ) 1次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めたり1次不等式を事象の考察に活用したりすること。	6～51 ページ	24
第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化	2 内容 (3) 2次関数 ア 2次関数とそのグラフ 事象から2次関数で表される関係を見いだすこと。また、2次関数のグラフの特徴について理解すること。 イ 2次関数の値の変化 (イ) 2次関数の最大・最小 2次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。 (イ) 2次方程式・2次不等式 2次方程式の解と2次関数のグラ	52～91 ページ	24

	<p>フとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。</p>		
<p>第3章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用</p>	<p>2 内容 (2) 図形と計量 ア 三角比 (ア) 鋭角の三角比 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。 (イ) 鈍角の三角比 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めること。 (ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めること。 イ 図形の計量 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。 [用語・記号] 正弦, sin, 余弦, cos, 正接, tan 3 内容の取扱い (2) 内容の(2)のアの(イ)については、関連して 0°, 90°, 180° の三角比を扱うものとする。</p>	92～123 ページ	20
第4章 集合と命題	<p>2 内容 (1) 数と式 ア 数と集合 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること。 3 内容の取扱い (1) 内容の(1)のアの(イ)については、簡単な命題の証明も扱うものとする。</p>	124～137 ページ	6
第5章 データの分析	<p>2 内容 (4) データの分析 ア データの散らばり 四分位偏差, 分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明すること。 イ データの相関 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明すること。</p>	138～159 ページ	10

<p>課題学習</p>	<p>2 内容 〔課題学習〕 (1), (2), (3)及び(4)の内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして, 生徒の関心や意欲を高める課題を設け, 生徒の主体的な学習を促し, 数学のよさを認識できるようにする。 3 内容の取扱い (3) 課題学習については, それぞれの内容との関連を踏まえ, 学習効果を高めるよう適切な時期や場面に実施するとともに, 実施に当たっては数学的活動を一層重視するものとする。</p>	<p>160~170ページ</p>	<p>6</p>
		<p>計</p>	<p>90</p>